

# 家畜衛生だより 平成29年8月号

紀北家畜保健衛生所  
紀南家畜保健衛生所  
東牟婁支所

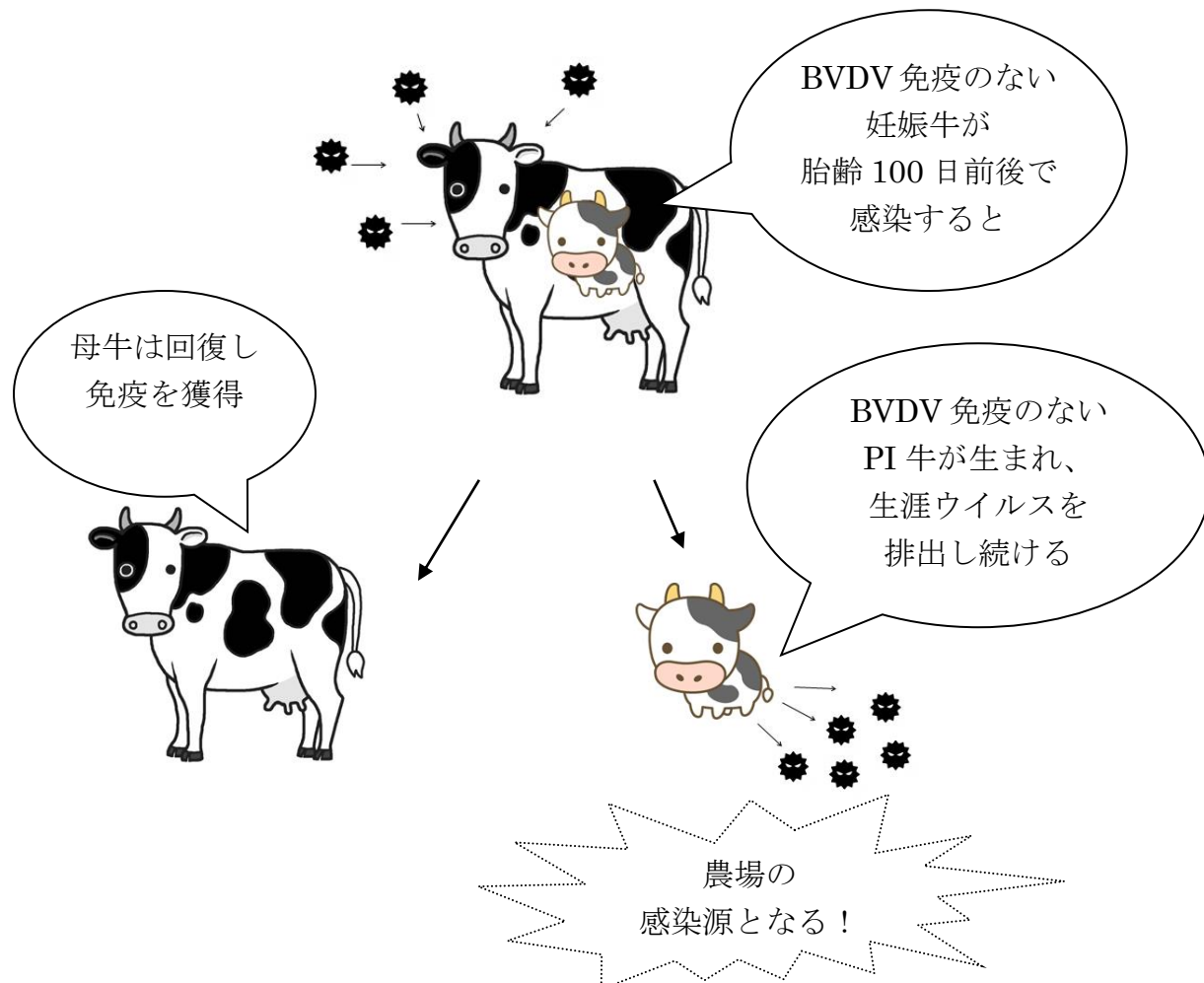
TEL 073-462-0500  
TEL 0739-47-0974  
TEL 0735-58-1481

## 【牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)について】

全国的に増加！一番の問題はPI牛です！

BVD-MDは、牛ウイルス性下痢ウイルス(BVDV)の感染により、下痢症や呼吸器病、発育不良、泌乳量低下、異常産など、生産に影響する様々な症状を示し、発生戸数および発生頭数ともに、近年全国的に増加傾向にあります。

感染すると2~3週間程度で自然治癒する場合があります。しかし免疫のない妊娠牛が胎齢100日前後で感染すると、胎児は持続感染牛(PI牛)として娩出される確率が高くなります。このPI牛が一番の問題です！



## 一見健康そうに見えるその牛も PI 牛かも？！

### PI 牛とは

- 生涯にわたりウイルスを排出し続けます（尿・糞・鼻汁・唾液中）。  
多くが発育不良、慢性の呼吸器病、消化器病となる一方、正常に見える牛も多いです。
- 汚染源となり、農場全体の生産性に大きな影響を及ぼします。
- PI 牛から生まれた子牛は必ず PI 牛になり、新たな感染源となります。
- 治療法はなく、早期発見と計画的淘汰しか対策はありません。

## ワクチン接種していますか？

- ワクチン接種で感染を予防できます。
- 育成牛なら生ワクチンの2回接種を推奨します。
- 搾乳牛・繁殖雌牛なら、初回種付け3週間前までにワクチン接種をしましょう。
- 妊娠牛への生ワクチンの接種は絶対にしないでください！  
(PI 牛の生まれる可能性があります)

## 検査をしましょう

- 血清の遺伝子検査でPI 牛であるかがわかります。
- バルク乳の遺伝子検査で農場内の泌乳牛の中にPI 牛がいるかがわかります。
- 抗体検査によりワクチン接種の必要があるかがわかります。
- ワクチン未接種牛から生まれた子牛、ワクチン接種歴不明の導入牛などは検査の必要があります！

気になることや不明な点がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所までお問い合わせください